

# 洋風便器

(床排水)

防露便器



このQRコードはメーカー管理用です。

この度は当社商品をお買い求めいただき、誠にありがとうございました。

## 注意

- この施工説明書をよく読み、正しく本商品を施工してください。
- 施工後は必ず試運転を行ってください。
- お客様に必ず本書と取扱説明書や保証書をお渡しください。お渡しするときは、使用方法をご説明ください。

## 安全のために守ってください！

便器を安全に取り付け、使用時の事故を回避するための注意事項をあげさせていただきます。  
 施工前に、この項目をよくお読みいただき、事故のないように正しく取り付けてください。

### 用語の説明

- 警告** . . . 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。
- 注意** . . . 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

## 警告

本体や電源プラグに水や洗剤をかけないでください。  
 ※ 感電・火災の恐れがあります。  
 (100V 電源使用の場合)  水かけ禁止

修理技術者以外の方は、分解したり修理・改造は行わないでください。  
 ※ 感電・火災・ケガの原因になります。  
 (100V 電源使用の場合)  分解禁止

ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししないでください。  
 ※ 感電の原因になります。  
 (100V 電源使用の場合)  ぬれ手禁止

バスルーム内など湿気の多い場所には、設置しないでください。  
 ※ 感電・火災の原因となります。(100V 電源使用の場合)  水場使用禁止

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っばったり、ねじったり、束ねたり、重いものを載せたり、挟み込んだりしないでください。  
 ※ 電源コードが破損し、感電・火災の原因になります。  
 (100V 電源使用の場合)  禁止

ガタついているコンセントは使用しないでください。  
 ※ 感電・火災の原因になります。  
 (100V 電源使用の場合)  禁止

● 交流 100V 以外では使用しないでください。  
 ● タコ足配線など定格をこえる使い方はしないでください。  
 ※ 火災の原因となります。(100V 電源使用の場合)  禁止

電源プラグをコンセントに差し込むときは、根元まで十分差し込んでください。  
 ※ 感電・火災の原因になります。(100V 電源使用の場合)  指示実行

## 注意

陶器は割れものです。  
 ● 施工前に輸送中の破損がないことを確かめてください。  
 ● 施工後に施工段階での破損がないことを確かめてください。  
 ※ 破損部でケガをしたり、漏水により室内浸水の原因になります。  
 (100V 電源使用の場合)  指示実行

止水栓の調節と施工後の漏水点検を必ず行ってください。  
 ※ 漏水し、室内浸水の原因になります。  
 (100V 電源使用の場合)  指示実行

お客様にお渡しするまでに凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。  
 ※ 凍結破損で漏水し、室内浸水の原因になります。  
 (100V 電源使用の場合)  指示実行

便器の底および側面に取り付けられている発泡材(防露材)は結露防止のための部材なので取り外さないでください。  
 ※ 便器が結露し床漏水の原因になります。  
 (100V 電源使用の場合)  指示実行

### 注意 1

便器を取り付けるまで、異物が混入しないように給水管にはプラグ(LF-7Tを推奨)、排水管にはビニール袋等でカバーをしてください。

給水管はぐらつきのないように、しっかりと固定してください。

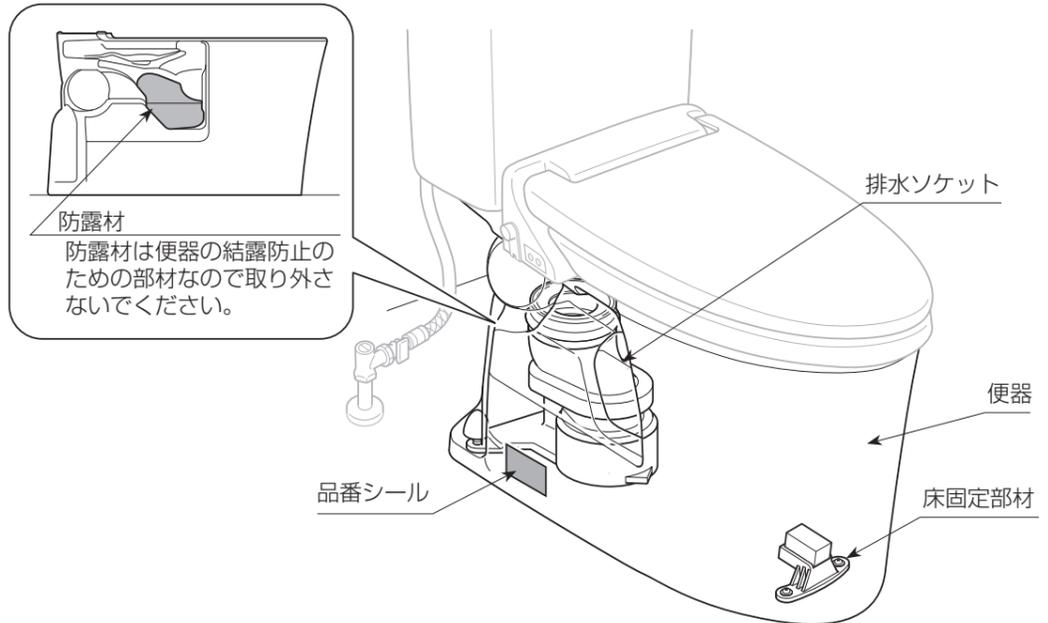
※ 給水位置は、排水管を中心に左右対称でも設置可能です。

### 注意 2

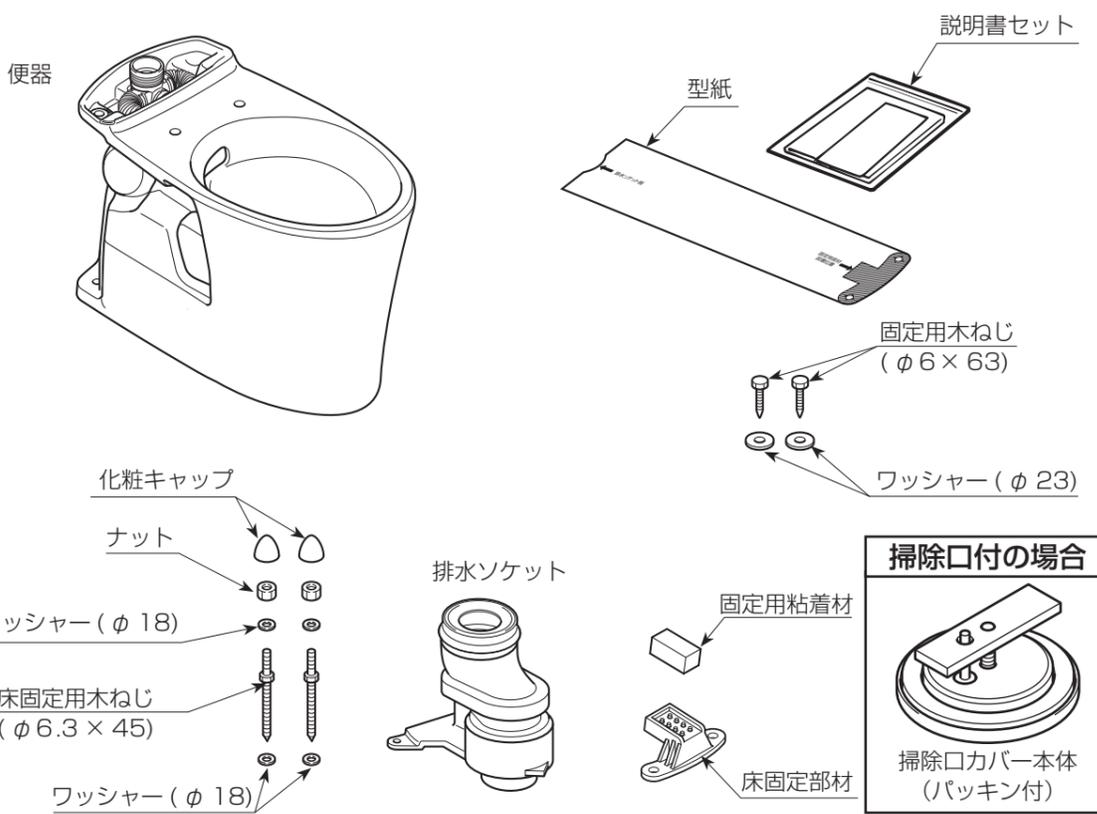
排水芯 200mm の床排水便器から取替の場合は CF-200AD を手配し、施工説明書にしたがって既存ソケットを取り外してください。

ただし、排水管が VP75 の場合は、CF-200AD は不要です。

## 各部のなまえ



## 部品の確認 (梱包内容を確認してください。)



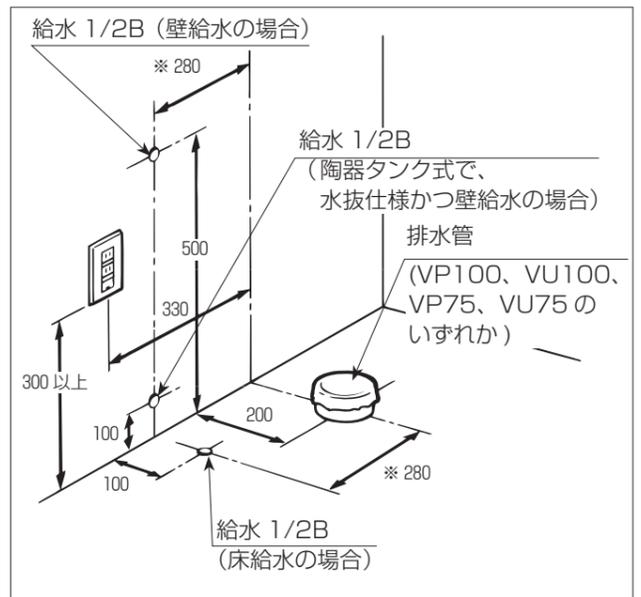
## 施工方法

### 1 給排水の位置決めと取出し

給水管、排水管を取り出します。  
 ※ 給水管、排水管を施工寸法通りに取り出します。誤って排水管を壁寄りに取り出した場合は、タンクと壁が干渉して施工できない恐れがあります。

注意 1 参照

注意 2 参照



商品・施工方法についてのお問い合わせは、お客様相談センターまで ナビダイヤル TEL 0570-017-173

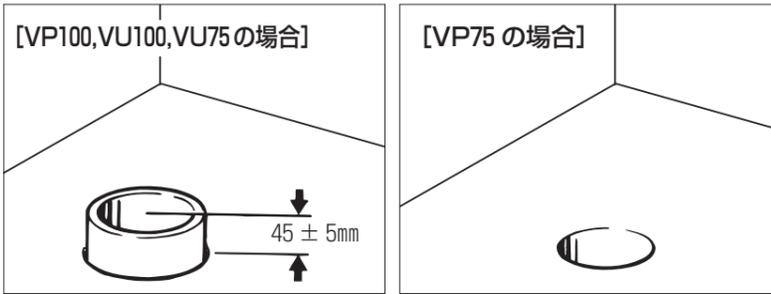
受付時間 平日 9:00 ~ 18:00 土・日・祝日 9:00 ~ 17:00 (ゴールデンウィーク・夏期・年末年始の休みは除く)

## 2 排水塩ビ管の切断

排水塩ビ管を水平に切断します。

VP100, VU100, VU75 の場合：床仕上げ面より高さ 45±5mm  
VP75 の場合：床仕上げ面

注意 3 参照



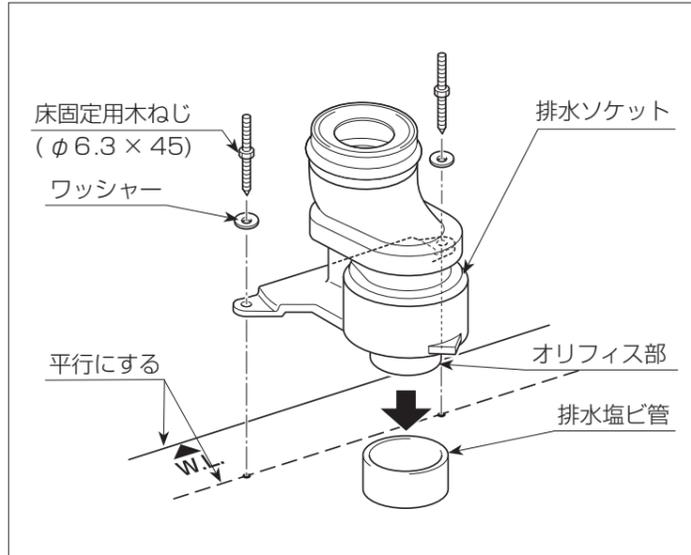
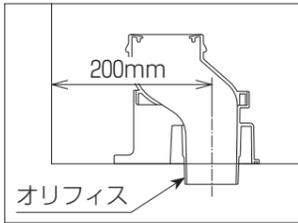
## 3 塩ビ管用排水ソケットの取付け

(1) 排水塩ビ管と排水ソケットの密着部をきれいにし、両方に塩ビ管用接着剤を塗って接着します。

※ 排水塩ビ管と排水ソケットの接着は、確実に行ってください。接着が不十分ですと漏水、臭気発生の原因になります。

参考 1 参照 注意 4 参照 注意 5 参照

(2) 床固定用木ねじ（2箇所）で排水ソケットを床に固定します。床がタイルまたはコンクリートの場合、下穴（径 11、深さ 55）をあけ、AY ボルト（AY-86D）を使用します。



## 4 固定用部材の取付け

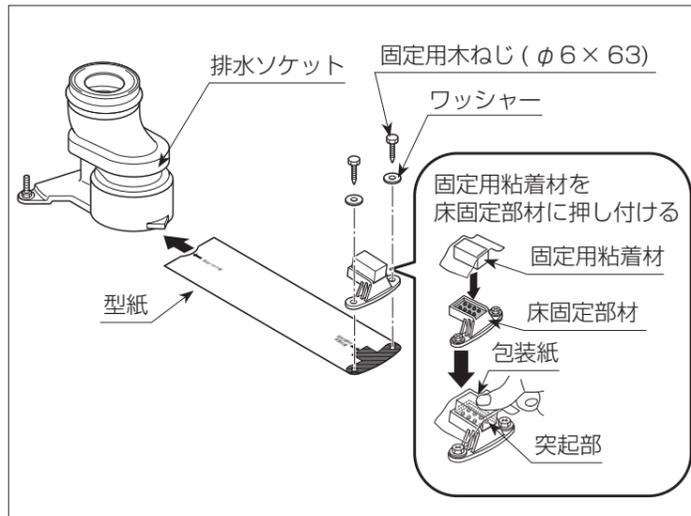
(1) 排水ソケットに型紙を合わせ、床固定部材の穴位置をけがきます。

(2) 型紙を取り除き、床固定部材を固定用木ねじで固定します。床がタイルまたはコンクリートの場合、下穴（径 11、深さ 55）をあけ、AY ボルト（AY-23W）を使用します。

(3) 固定用粘着材を床固定部材の上面中心に置き、包装紙を上にかぶせ固定用粘着材が床固定部材の突起部分に全て食い込むまで押しつけます。

(4) 固定用粘着材が剥がれないように固定用粘着材を押さえながら包装紙を剥がします。

注意 6 参照 注意 7 参照 注意 8 参照



## 5 便器の取付け

(1) 床固定用木ねじのボルト部に便器の固定用穴を合わせた状態で排水口を排水ソケットのゴムジョイントに差し込み、便器前方を浮かせたまま位置合わせを行います。

※ 陶器を排水ソケットに差し込む際、陶器が固定用粘着材に付かないように斜めにおろしてください。（右図参照）

注意 9 参照

(2) 便器前方をゆっくりおろし、便器前方が床に着くまで押し下げ、しっかりと圧着させます。

※ 位置合わせがずれた場合は、便器前方を持ち上げて、再度位置合わせを行い、取り付け直します。

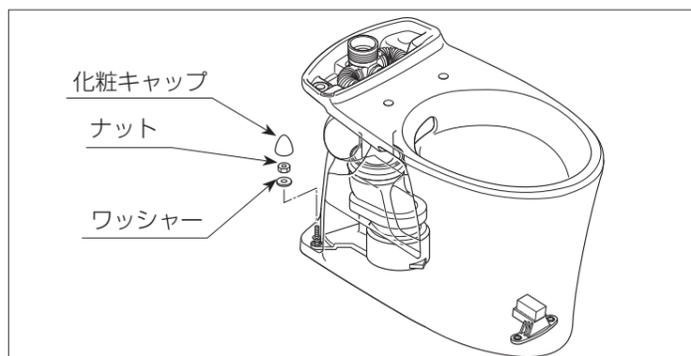
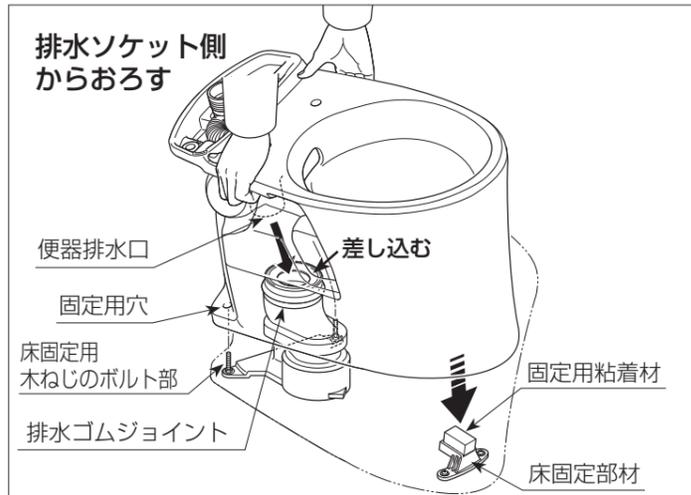
※ 便器をしっかり圧着させるための作業です。

注意 10 参照

(3) 便器後部をワッシャーとナットで固定し、化粧キャップを取り付ける。

注意 11 参照

(4) 便器を軽くゆすり、固定されていることを確認します。



## 6 掃除口の取り付け（掃除口付の場合）

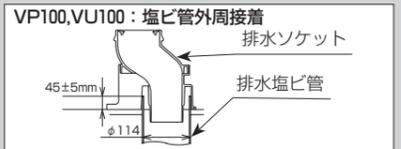
掃除口に添付の施工説明書に従い施工してください。

### 注意 3

排水管は、切断面が水平になるように切断してください。  
※ 切断位置が正確でないと漏水、臭気発生の原因になります。

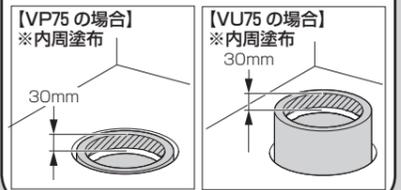
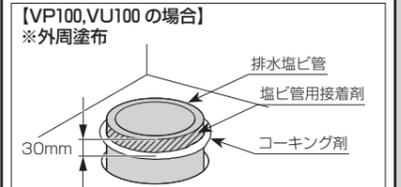
### 参考 1

排水塩ビ管と排水ソケットの接続は、以下のようになります。



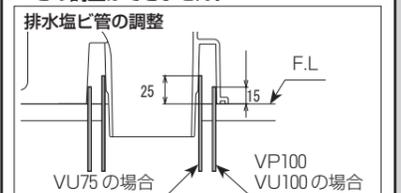
### 注意 4

すき間、ガタがある場合は、塩ビ管接着剤とコーキング剤を併用してください。  
※ コーキング剤は塩ビ管に塗布します。現場の配管によって塗布位置が異なります。（下図参照）  
※ すき間が大きいときは塩ビ管接着剤を多めに使用してください。



### 注意 5

はまらない場合は、下図のように排水塩ビ管の取出し高さを VU75 の場合は 25mm、VP/VU100 の場合は 15mm に変更してください。  
※ VP75 の場合は、排水塩ビ管の取出し高さの調整はできません。



### 注意 6

固定用粘着材に水気や汚れが付かないようにしてください。

### 注意 7

床固定部材に切粉等のゴミが付着しないようにしてください。付着している場合はきれいに除去してください。  
※ 便器の固定不良の原因になります。

### 注意 8

気温が低い場合、固定用粘着材が固くなる場合があります。暖めて柔らかくしてからご使用ください。  
※ 固定用粘着材は、直接お湯に入れないでください。入れる場合は、包装ごとビニール袋に入れて暖めてください。

### 注意 9

便器の台座を排水ソケットの上に乗せないでください。  
※ ソケットが破損したり、パッキンを傷めて漏水の恐れがあります。

### 注意 10

便器を外す際、便器後部にある便器固定ねじで便器をキズつけないように注意してください。

### 注意 11

陶器に対するねじは締めすぎないようにしてください。  
※ 陶器が割れる恐れがあります。